

キャラクター名
天上院 明

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ウロボロス		ワークス	暗殺者	カヴァー	神父
	オプション		年齢	28	性別	男
覚醒	探求	衝動	闘争	初期侵食率	33	%
出自	犯罪者の子	経験	記憶喪失	邂逅	秘密	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	4	0	0			4	行動値	6
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃	1		RC			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:	2		芸術:			知識:	2		情報:裏社会	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手	白兵	4r+3	1	Lv+8		《破壊の爪》使用後のデータ
		0				
内在者への変容		0		9		[234] シーン間肉体ダイス+4個
↳100↑		0		10		[234] シーン間肉体ダイス+5個

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
ロイス椅子に立つ影(シャドウバディ)	P	N		
父親	P 傾倒	N 無関心		
ローザ・バスカヴィル	P 連帯感	N 憐憫		
シナリオ:アサシズセル	P 執着	N 敵愾心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
C:ウロボロス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-Lv(下限値7)								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 素手データ変更								
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 【肉体】ダイス+[Lv+2]個								
原初の青:斥力跳躍	1	1(+1)	マイナー	至近	自身	自動	Dロイス	
効果: 戦闘移動を行う								
原初の赤:獣の力	2	3(+1)	メジャー	-	-	対決	-	
効果: 攻撃力+[Lv*2]								
原初の黒:マズヴィジョン	3	4(+2)	メジャー	-	-	対決	100↑	
効果: 攻撃力+[Lv*5] シナリオ3回								
喰らわれし贄	3	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果: シーン1回 与ダメ-ジで攻撃力+[Lv*3]								
道化の出し物	★	1	オート	至近	自身	自動	-	
効果: エフェクトの外見を偽装するよ!								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

てんじょういん あきら/『暴力』の神父
BGM: 神教⇒Exclamation! やいり feat.SIN

【キャラ詳細】
N市内の教会に勤務する神父。
その実態は己の中に存在するどす黒い感情、抑えるべき衝動の一つである「暴力」を神として敬う暗殺者。
現在の名前は洗礼名のようなものであり、本当の名前は「皇后崎 武」という。
己の弊害となる人物、或いは己の視点から『道に迷っている』と認識した人物を「生命の破壊」という方法で楽土、即ち死へと導いており、オーヴァードとしての能力が暴走した時にその高圧的で歪んだ本性が明らかになる。
反面、正しく在ろうとするものや秩序を保とうとするものに対しては好印象を持っており、それは半ば憧憬に近いものかもしれない。
彼がイリーガルとしてUGNに協力するのは、上記の通り「秩序の維持」である。
秩序が在れば迷うことはなく、神がいれば人は墮ちることはない——そう信じている。

-過去-
父親が犯罪者であり、非常に暴力的な性格だったが故に、母親に対する家庭内暴力を日常的に目撃している。
母親はそんな父親に為す術もなく従っており、そのせいで明自身も何度が暴力の対象となっていた。
母親や自分に対して暴力を振るう時、父親はいつも「俺がお前らにとつての神様なんだ」と言っていたことによって、天上院明、もとい皇后崎武という少年は、父親のことを「神」だと認識する。
彼が己の中にある暴力を神だと敬うのは、そういった幼少期の経験からであり、彼自身そのことは忘れていたが、彼が戦闘の際に顕現させるアヴァターが屈強な肉体を携えた神々しい「ナニカ」であることから、非常に大きな影響を与えているのは明らかである。

-覚醒のキッカケ-